

令和5年度県立夜間中学設置準備室等に係る懇談会第3回会議録【概要】

- 1 日時 令和6年1月29日（月） 午後2時から午後4時まで
- 2 会場 鳥取県教育センター情報教育棟2階 情報研修室3
- 3 出席者 懇談会委員7名、県教育委員会事務局6名、まなびの森学園4名

4 内容

(1) 教育次長あいさつ

まず、元日におきた能登半島沖の地震について、現在もまだ避難をされておられる方がたくさんいらっしゃる。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げるとともに、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞いを申し上げます。

県の方も、現在、第7陣が、復興支援ということで派遣をされているところ。県教育委員会としても、できる限りの支援、協力をしていきたいと考えている。

さて、昨年10月に、まなびの森学園を設置し、入学者募集の方も併せてスタートした。入学者募集については、昨年から一年間かけ、まなびの森学園のスタッフで、全県各地で授業体験会や説明会等、キャラバンを組んで開催してきた。

延べ、100名以上の方に、ご参加をいただき、相談があれば、丁寧に聞きとりをしていただいたと承知している。そういったことが、一つ一つ積み重なって、現在の入学予定者につながっているのではないかと考えている。まなびの森学園に対して、大きな期待をしている方が本当にたくさんいると、改めて感じたところ。

その期待にしっかりと応えていくために、まなびの森学園のコンセプトを具現化していく。「3つのよろこび」、これを教育課程に表し、教育環境を整えていく。そういった取り組みを現在、進めているところ。

最後になるが、約2年間、この懇談会を開催させていただき、委員の皆様から本当に多くのご助言、ご支援をいただいたことに対し、本当に感謝申し上げたい。今回をもって、懇談会としてはひと区切りとさせていただきますが、まなびの森学園は、これからがスタートということになるので、引き続き様々な形でのお力添えをいただきたい。

(2) 報告

- ア 入学予定者等の状況について
- イ 追加の入学者募集について
- ウ キャラバン最終報
- エ 校歌について
- オ 年間行事予定案について

<質疑>

委員	2点お聞きしたい。1点目は、年度途中に入学希望があったときに受け入れてもらえるのか。2点目は、年間行事予定案は、既に、入学予定者に説明がなされているのか。
まな森	まず1点目の結論としては、年度途中での入学も可。まなびの森学園の設置に際し、鳥取県立中学校学則を新たに定め、10月1日の学校設置とともに施行している。その中で、入学については、年度初めを基本とするが、教育上支障がない場合は、学校長の判断で、年度途中の入学も可とする。要は、その学年の学びがきちんと保障されて、完了するかということが大切。本人の状況を面談の中で聞き取り、例えば、2年生の途中からでも、その方の学びを保障できるかといったような部分も踏まえながら、受入れを検討する。 あとは、本校での授業などを見ていただいたり、実際にお試しでの入学であったりというようなことも、今年の8月後半に設けるので、そういった部分でも体験していただきたい。 ただ、さすがに2月ぐらいになってから入学したいというのは、仕切り直しをして、年度当初の4月からということはあるかと思うが、可能な範囲で、年度途中でも受け入れていきたい。いずれにしても、ケースバイケースになるかと思う。 2点目の年間行事予定案については、まだ、入学される方には示していない。2月の終わりから、3月の初めにかけて、入学予定者オリエンテーションを企画する。その中で、年間行事予定案についても説明することになっている。
委員	可能な限り、柔軟に入学を受け入れていただきたい。それから、年間行事予定のことを伺った

委員	<p>のは、入学される方々は、この学校をおもしろいと思ってもらえるようになるはずなので、学校の行事は、学校だけで決めるのではなく、入学を予定されている方々、あるいは相談に来られる方々のお気持ちも聞いてみるというのもあってよいのではないかと。</p>
まな森	<p>入学希望者の数を見ても、やはりニーズというのは一定程度あったなということ、あるいは、その期待があった証拠でもあろうかと思う。やはり、開校後の実績とか、入学する生徒の声が、さらなる後押しになっていく。そういった中で、入学を希望する理由などは、想定どおりだったのか。</p>
委員 委員	<p>私たちの想像以上に学びたいという思いを強く持っておられると実感している。入学を希望する理由は本当に心からの言葉で表現されていた。まなびの森学園への期待を持って、学べる喜びをこれまでの葛藤とともに打ち明けていただいたものだと思っている。それに応えられるよう、4月以降、直接、生徒さんに関わる中で、一緒に学校を作っていくという気持ちを持ち続けたい。</p> <p>数多くではないが、もっと戦後の混乱期の中で学ぶことができなかつた方が入学されるのではなかろうかと考えていた。入学までのハードルをクリアできないという方も現実的におられる。</p> <p>入学者の声、ハードルをクリアする後押しになると思う。</p> <p>不安で、本当は頑張らなくて勉強したいというような方も実際おられる。ただ、どうしても構えてしまって、他の方と同じように入学の申し込みができないという方を知っている。</p>
県教委	<p>そういった点でも、情報がまだまだ本当に少ないし、なかなか手元にお出しできないというのもある。これから、学校の現状をお知らせしていく役割を私も担っていくんだらうと思う。実際、本当に勇気がいるんだということを、しみじみ感じているところ。</p> <p>1つ質問としては、心のケアとか、心理面の相談というようなことで、例えば、スクールカウンセラーであるとか、スクールソーシャルワーカーの配置や派遣について、本当に人材が少ない中で大変だとは思いますが、いかがか。</p>
まな森	<p>スクールカウンセラーについては、来年度4月から週8時間、配置の準備を進めているところ。スクールカウンセラーと交渉しながら、校長にニーズも伺いながら、配置準備を進めている状況。スクールソーシャルワーカーについても、どのような形でということは未定だが、何かしらの形で夜間中学に関わるということは検討しているので、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを含めて、教育相談体制の充実を夜間中学においても、図って参りたい。</p>
委員	<p>それに加えて、職員誰もが心理的ケアをしていけるよう、校内体制を整え、校内研修なども進めていくような計画を考えている。</p>
委員	<p>不登校の方が社会参加するときの選択肢として、受け入れについて検討していただきたいと、私たち支援団体の身として、要望させていただけたらなと思っている。</p>
まな森	<p>居住地を見たら結構遠方から通ってこられる方もあるが、実際通学は可能か。例えば、冬にJRが止まった場合、学校の対応について、今から考えていることがあれば、教えていただきたい。</p>
委員	<p>入学予定者の中にはJRで学校に来る練習をしたり、ご家族が最寄り駅まで送って、後は、JRで通われたり、JRを乗り継いでこられる予定の方がいる。当然、天候や諸事情で、なかなか登校しづらい日もあることも想定されるので、対面授業を大事にしたいという考えをベースとしているが、場合によっては、ICTを活用したような形で、学校とネットワークで繋がるようなイメージも持って、準備をしているところ。</p>
委員	<p>この夜間中学の存在をもっとお知らせして、学びの場の選択肢としていただくために、これからは引き続き広報させていただく。</p>
県教委	<p>実際にこの学校に配置になる先生というのは、この表にある、国語から外国語までの9人になるという理解でよいか。</p>
委員	<p>人数という部分では、イコールではない部分もある。例えば、1人の先生が複数の教科を教えられるような指導力を持つ方であるとか、短時間の勤務をされる方とか、いろいろな形態があると思うが、基本的には各教科が指導できるように、配置をしていきたいと考えている。</p>
まな森	<p>湖東中学校の体育館を水曜日に使用するというので、保健体育以外の教科については、特に音楽などの実技教科での教室の使用予定はあるか。</p>
	<p>一先ず、体育館をお借りすることをお願いしている。実際に、学校が稼働してから、今後必要になってくる場合は、また、改めてご相談をさせていただく。</p>

(3) 協 議

ア 生徒指導のあり方と教職員の姿勢などについて

<質疑>

委 員	生徒指導に一般的に必要なことは全部網羅されているが、その中で、何が必要になるかというのは、生徒が入学してから作られた方がよいような気がする。一人の人間として大切にされるという観点から、自立していくという形のものが必要になってくる気がする。
委 員	教育相談となると、例えば、スクールカウンセラーとか専門的な相談のイメージが強いと思うが、この学校で大事なものは、先生方が教育相談の考え方をベースにした授業を作ることだと私は思っている。 人数も少ないし、今日の生徒の実態をどういうふうにとらえて、学習内容をどういうふうに進めるかということ、臨機応変に、個別の指導計画に従って、進めていくことになるはず。この学校には、教育相談の考え方をベースにした授業づくりをしてほしい。 先生方同士の個別のケース会議というものが、年間の行事予定表のどこかに書き込まれていて、教員に示すのであれば、この個別のケース会議の時間は、絶対大事な時間なんだということがわかるようにしていただきたい。
委 員	関係機関との連携というところで、夜間中学の役割として生活指導も含めたサポートということが大きな機能になっていくと思う。 この関係機関というのが、いろいろと考えられるべきところだと思うが、他県の例等も含めて、どんな関係機関が想定できるのか、あらかじめ考えておくということが必要ではないか。
県教委	生徒指導提要自体は、一般的には、小中高校生を相手にしていくということになるので、基本的な考え方はこれでありだとは思いますが、実際には、年齢が様々な方々に私たちはどう関わっていけばいいのか、そういった部分の悩みが多分出てくるのではないかと。 それから、家庭的な悩みや様々な悩みに対して、どこまで私達ができるのかという部分もあると思うし、実際、そういった経験値をお持ちの方々から、いろいろなアドバイスを受けなくてはいけない。 先生方が実際に関わっていかれる部分の中で、大人である生徒との関わり方については、これまでの学校で経験したこととちょっと違う。そういったあたり、関係機関にいろいろなアドバイスを求めていくということが大切だと思う。

イ 生徒会活動のあり方について

<質疑>

委 員	入学してくる生徒数からすると、初年度に生徒会組織を編成することは一人一人の負担が大き過ぎると思う。案3に書いてあるように、その都度、生徒同士の話し合いの中に、教員側としては、この行事の取り組みではこういう力を付けたいとか、この人にはこういうことがわかるようになって欲しいというものを、随時作っていった方がよいのではないかと。 いきなり、案1のような姿を目指すというのはちょっと厳しいと思っている。 9ページの方にある生徒会活動との関連付けについて、初年度いきなり全部やらなければいけないと思わないほうがよい。それぞれの生徒の状況によって、柔軟に考えた方がよいのではないかと。 もう一つ、生徒会活動のあり方ということを示すのであれば、この学校を、1年なり2年なり3年進んだ段階で、こういう姿になって欲しいという、目指す生徒像を示した方がよいように思う。あわせて、教員向けには、求める教職員像というものもあったほうがよい。
委 員	生徒にどんな背景があっても、どんな学習ができていないのか。どういった方がわからない中、生徒会執行部を決めるのは難しいのではないかと。 実際に集まって学習をしていく中で、だんだん自信もついてきて、集団の中では、すごく自分の思いが語れるようになってきてから組織をつくれればよい。 引っ張っていけるような方がおられるか、わからない中で、いきなり生徒会長を決めてどうか、どれかの案を選ぶのは難しいような気がする。
委 員	執行部を形成するというのは、今の段階ではまだ早い。多分、2年後3年後、教員がこういう形に持っていきたいということを念頭に置きながら、1年目は実行委員会の募集をしながら、その都度、動いていけばよい。 ただ、生徒の希望ばかり汲んでいたのでは、生徒が遠慮した場合、活動が進まなくなる可能性がある。順番に実行委員会の役を意図的に持たせ、生徒と相談しながら、自覚を持たせ、8ページに書いてある部分は2年後3年後の生徒の姿を見て、生徒会執行部の形を考える手もあ

県教委	<p>るのではないか。</p> <p>ゼロの状態からスタートするので、いろいろなことをやりながら決めていかなくてはいけないことが出てくると思っている。</p> <p>生徒会にしても、様々な取り組みにしても、生徒の気持ちを聞きながら、一緒に学校を作っていくというのが一番大切ではないかと思う。</p> <p>そういった部分で、何かしら自己決定力や自治力などがついてくるのではないか。</p>
-----	--

ウ 学校運営協議会の設置準備について

<質疑>

委員	<p>学校運営協議会は、制度的に熟議というのが大事になってくると思う。</p> <p>先ほどから言っている目指す学校像をコミュニティと学校とが、しっかりと共有すること。そういったところで、熟議の果たす役割というのはとても大事なものがあると思うので、目指す学校像への迫り方を、膝を突き合わせて話し合えば、すごくよいと思う。</p> <p>11ページの下の方に、地域の課題ということも出ているが、学校づくり、ということがひとつ大事なポイントと思うが、もうひとつ、学校を核とした地域づくりということと一体的に推進しようというのが、県教委の方針でもあると思う。そういった意味でも、地域の課題というの掘り起こしながら、そこに迫っていくというのは、自主的な生徒会活動の活性化ということにもなり、良い方法が見出せるのではないか。</p> <p>委員については、各種専門機関の方はとても大事だと思うし、当然、地域住民の代表の方も、学校運営協議会に入って然るべきと思う。</p>
委員	<p>学校づくり、目指す学校像というのが、コミュニティ・スクールの中では、ひとつテーマになるだろうと思う。メンバーは、生徒のために関わられる方を集めたいという趣旨だと受け取ったが、まなびの森学園は、学校と地域の協働活動を主にするのか。</p> <p>夜間中学の場合、イメージがわいてこないが、例えば小中学校の場合であれば、朝の登下校の見守りを地域の皆さんがほぼ毎日、朝晩してくださって、子どもたちはそのありがたさや感謝の気持ちが育って、例えば、秋の収穫のときに感謝祭をして、関係の皆さんを呼ぶとかそんなことができている。</p> <p>まなびの森学園でそういうことを目指すのかということ、まず考えないといけない。いきなりは目指せないのではないか。</p> <p>学校の関係者評価という役割を担っていただく委員を選ぶことになるが、学校運営協議会の中身がわかっておられて、快諾してくださった方はよいが、この仕組みを説明して、理解してもらえるかどうか。ちょっと人数が多すぎる感じがする。全員を学校運営協議会の中に入れるのではなくて、学校運営協議会の関係機関として、何らかの組織を位置付けておいて、何かのときにはその組織に相談するとか、連携するとかという形の方がいいんじゃないかと思う。</p>
委員	<p>そういう意味では、近隣地区の方に学校運営協議会に入ってもらって、まず学校を知ってもらおう。こういう学校がここにできたんだということを知ってもらって、ことある度に、PRをしてもらえるような方がおられると、すごくよいと思う。</p>
まな森	<p>実は近隣地区の方には、随分とお世話になっており、自治会の集まりに何回もお邪魔したり、民生委員の会にもお邪魔をしたり、PRしていただけるというお話をいただいている。近隣自治会の方は比較的、理解も進んできてるかなと。</p> <p>そして自治会の会長さん方は、随分と応援してくださっており、自治会の事務局も全面的にバックアップしてくださっている。</p>
委員	<p>地域の核になっている方ときちんと繋がって、例えば、学校だよりみたいなものを班回覧として簡単に頼めるような関係を作ってほしい。近隣の地域の代表の方は入っていただくべきと考える。</p>
まな森	<p>人選をよく考えていきたい。</p>

5 連絡

開校式・入学式の予定について

6 閉 会 参事監あいさつ

2年間にわたり、お世話になった。感謝申し上げる。

この会もスタートの時点では、平成30年度、31年度に県教育審議会の中に、夜間中学調査研究部会を設けて始まり、そのあとの2年間、令和2年度、3年度には、夜間中学設置検討委員会として、そして令和4年度からは今のような設置準備等懇談会というように、6年間の長きにわたり進めてきた。

夜間中学調査研究部会発足から、継続して6年間、お世話になった委員さんもおられる。

私も平成30年度から、途中2年間は行政にはいない期間があったものの、関わらせていただいていた。当初は、本当に何もわからない状況で、どのようにニーズ調査をするのか、本当にニーズはあるのか、といった状況から、令和5年10月には、このまなびの森学園が設置され、いよいよ2か月後には開校ということになった。

皆様の専門的な見地からご意見をいただいたり、様々な方に関わっていただいたりした中で、開校という段階になったと思う。

ただ、今までと大きく違うのは、入学する方々の姿が見えてきたということ。

今日のご意見の中にも、その方々を思い描いて、その人たちを本当に大切にすることが大事なんだ、柔軟にとらえてスタートすることが大事なんだ、というような、たくさんの貴重なご意見をいただいた。

やはり、我々がスタートのときから大切にしたいのは、学びの保障をすべての人たちに、ということ。そして今、学びを求めている人たちの中には、不安な気持ちでいっぱいの方もたくさんあると思う。

まなびの森学園にやってきて、周りの人と協働して、どう関係づくりをしていくか、どう学んでいくかというところからスタートする中で、例えば、生徒会のことであるとか、本当に一足飛びに進めるのではなく、その方々、一人一人の実態に合わせて、教員として状況をしっかり見取りながら進めていきたいと考えている。

一人でも多くの方々に、社会の中で生きていくよろこび、光、そういったものを与えられる、そんな学校でありたいし、そういった学校を作って参りたい。

本当に、長きにわたりお世話になった。

今後とも引き続き、開校してからも、ぜひ見守っていただき、ご支援を賜りたい。